地域移行通信

第46号　令和元年11月発行

地域移行だョ！全員集合

世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

＜世田谷区自立支援協議会　地域移行部会＞
精神科病院の入院患者等の退院促進に向け、関係機関の情報交換や課題への対応策等の検討を行っています。

令和元年度第2回地域移行部会を開催しました

『誰でも』地域移行部会「世田谷区の地域移行のこれからを考えよう ～次期障害福祉計画策定に向けて～」

日　　時：令和元年１０月３０日（水）午後
場　　所：東京リハビリテーションセンター世田谷
参加人数：５５名（病院関係者、高齢・障害福祉支援者、行政等）＋地域移行部会メンバー

令和元年度第２回目の『誰でも』地域移行部会は、東京リハビリテーションセンターで開催しました。
希望者は部会の前に地域移行部会のこれまでの活動、第１回地域移行部会（昭和大学附属烏山病院編）の実施全区的な保健医療福祉サービスの拠点機能となる東京リハビリテーションセンターの施設見学を行いました。
今回の地域移行部会では、ここ数年動きが大きい国の精神障害施策の動向と、報告を行いました。
また、長期入院を経験された後、病院から退院されて地域で暮らす当事者に登壇いただきました。
さらには、第１回地域移行部会で挙げられた意見を踏まえ、次期障害福祉計画の策定を見据えてグループワークを行いました。

当事者の方のお話

当事者の方に「入院生活から地域へ　～案外、自由で楽しいな～」というテーマで、入院から退院、現在の生活やお気持ち等について、写真も交えながら地域の支援者とともにお話していただきました。当事者の方のお話を一部ご紹介します。

Ｑ：退院したいとあまり感じなかったということだが病院の生活はどうだったか？
Ａ：住めば都、慣れてしまったら楽だった。すごく嫌とかではなかった。

Ｑ：退院して２年ほど経つが、退院して良かったか？
Ａ：良かった。自由、自分のやりたいことをやれる。
　　忙しい（デイケア、訪問看護、ヘルパー等スケジュールがいっぱい）。

Ｑ：退院するために使った地域移行のサービスの良かった点は？
Ａ：一緒にアパート探しとかしてくれた。１０件とかではきかないくらいまわった
　　家賃が高く、収入の中で探すのに苦労した。

Ｑ：（担当のケアマネジャーより）苦しいことはないか？
Ａ：気楽にやっている、気ままだし最高。

グループワーク

参加者全体で「居住支援」と「生活支援」２つのテーマを共有した後、
１０グループに分かれ、どちらか1つのテーマで、グループワークを行いました。

◎「居住支援」：「住まいの確保」について

居住支援では、世田谷区の住宅支援の職員も参加し、病院スタッフ・地域支援者それぞれが、居住支援についての「取組み」「課題」「“こうなったらいいのに♪”という目指したい世田谷の姿」について話し合い、以下のような意見がありました。

１　居住支援における取り組みと課題・課題

（１）地域生活に対する本人及び家族、支援者の不安とその軽減
（２）本人の状況や希望にあった退院先がみつからない
（３）住まいの場の確保に係る公的制度の周知不足
（４）大家の障害者に対する偏見、誤解が背景にある
（５）障害施策から高齢施策への引継ぎが不十分

２　目指したい世田谷の姿

（１）退院・地域移行前に立ち止まって考える時間の設定

急ぎ足で退院や地域移行を進めるだけではなく、一旦現状に立ち止まり、本人と一緒に退院後の住まいや暮らしについて考えられる機会の設定や、関係者が本人の意向や家族の不安をゆっくりと伺い、顔合わせして共有する時間の設定を大切にしていきたい。

（２）退院後の住まいの確保に向けた取り組み

地域移行を進めるためには、住まいの確保が大前提であり、グループホームの充実は必要。
また、単にグループホームを設置するのではなく、入院中から生活体験を積むための機会や日常生活の経験を段階的に踏める住まい・施設が充実すれば、地域で生活する具体的なイメージが膨らみ、住まいの場の選択についても視野が広がる。
更には緊急連絡先の公的支援制度（例えば、緊急時の支援が見込めない世帯を把握・登録した上で常時連絡体制を確保し、緊急の事態等に必要なサービスのコーディネートや相談、必要な支援を行う機能）など、大家の不安解消策をうち出せれば、成約の可能性は広がる。

（３）住みやすい地域づくり

偏見のない誰もが安心して住み続けられる街は目指す姿の大前提である。部屋探しの時に障害や病気について聞くのは「差別」とするような、区独自のルール・条例は作れないだろうか。

（４）福祉部門と住宅部門の連携　～「知らない人」を減らす努力～

地域の支援者にお部屋探しサポート等の住宅支援に関する制度を周知していくことで、「知らないために制度を使えなかった区民」を減らしていく。
一方、住宅支援の職員も障害者と接する機会は多いが「どのように接すればいいのか？」といった不安もある。また、障害特性に応じた対応に不十分なときもある。エリア自立支援協議会や地域移行部会でのつながりを活かして、障害部門からトラストまちづくりや家主、不動産業者への情報発信（広報・セミナー）を行うなど、住宅部門の相談窓口が「障害に対して知らない」ことを減らし、障害者を受け入れる土壌を整えていきたい。

（５）障害部門と高齢部門の連携

障害福祉サービスから高齢福祉サービスへの移行は、制度や支援者が大きく変わる場面である。総合支援法から介護保険への移行について、両者の支援者が丁寧に引き継ぐ仕組みにしていく必要がある。
また、高齢のケアマネジャー向けに障害福祉サービスの制度理解を進める研修を実施していくことも必要である。

グループワーク続き

◎「生活支援」：烏山病院編であがった課題を元にそれぞれのグループで深める

生活支援では、病院スタッフ・地域支援者それぞれが、前回の第１回地域移行部会　烏山病院編のグループワークで出た10項目の課題の中から１つ若しくは２つのテーマを選び、「困りごと・疑問」「できること」について話し合い、以下のような意見がありました。

生活支援における取り組みと課題から見えた目指したい世田谷の姿

（１）退院に向けた医療と保健福祉の連携

区民が入院したらすぐに病院から地域の支援者に連絡が届く仕組みをつくり、入院直後から退院に向けた準備を病院と地域で進めていく。（何か動き出すわけではないが、自分が担当する地域に入院患者がいるということを知っておくことも大事である。）
また、定期訪問や退院前カンファレンスなどの日程調整が難しい場合は、電子ツール（テレビ電話など）を活用して面接や会議への参加ができるとよい。

（２）多様な相談支援機能の役割分担

現在は、障害に係る法整備も進む中で様々な地域の支援者が出てきて、役割分担も進み始めている。支援者間のスムーズな連携のためには、顔の見える関係づくりが必要。
遠回りかもしれないが、お互いの職種や立場の役割、できることをきちんと知ること、またそのためには、日ごろのやりとりや会議において、自分の役割を伝え、相手の役割を知ることを意識的にする必要がある。
こうした目的を達成するためにも地域移行部会で行っている地域支援者と病院スタッフ両者を交えた事例検討を継続して実施していくことは有効である。
また、事例を積み重ねて、どこの相談窓口で受けても最適なキーパーソンとチーム体制ができあがるような業務フローやフェイスシート、チェックリストが作れるとよい。

（３）地域生活における緊急時の対応

本人の病状変化時、適切に対応するため、タイムリーに情報を全体共有するためにはどうすればよいか。緊急対応やＳＯＳへの対応が必要と見込まれる方には、予め登録制で常時連絡体制を取れるような機能が行政にあれば安心できる。障害者総合支援法の個別給付である地域定着支援を区委託事業で実施できればよい。

（４）地域生活を支えるために必要な支援

本人の自己評価が高く、なんでもできると思っている方の中には、地域生活を送ってみると実際は難しいということも多い。病院からダイレクトに地域に戻るのではなく、ワンクッションおけるような、生活スキルのアセスメントができ、本人も体験できる場、施設があるとよい。
また、地域生活を送る際に必ず通う必要のない気軽な場があれば、本人が通うプレッシャーを感じずに、安らぐ居場所となり、安心して暮らすことができる。
こうした居場所に気軽に相談できる支援者や当事者、地域に住む方が集う環境があれば、共生社会としての象徴となる。

アンケート

今回の『誰でも』地域移行部会には定員を超える多くの方に、参加申込をいただきました。最後に参加された方のアンケートをご紹介させていただきます。

Q：今回の地域移行部会にご参加いただいた理由は何ですか？

理由	回答数
地域移行・地域定着に関心があるため	32
地域移行部会のアクションプランに関心があるため	8
病院との連携のため	10
地域支援者との連携のため	25
研修、勉強のため	30
参加するよう指示があったため	5
その他	4

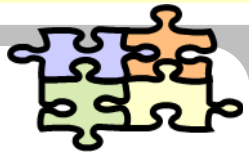
Q：今回の地域移行部会はいかがだったでしょうか？

- 病院から地域移行した当事者の体験発表がよかった。
- 住まいの確保について、“課題”を改めて考えるきっかけになりました。
- 病院から地域に定着するまでの各段階での問題を、各方面の皆様から聞くことが出来、自分の業務の振り返りにもなった。
- 生活支援について、訪問看護、ケアマネジャー、あんすこなど関係機関を情報共有ができ、横のつながりが出来て良かった。
- 地域の取り組みを知り、支援者と顔を会わせて意見交換する時間が大切だと思った。

Q：今回の地域移行部会において、得られたもの、理解が深まったもの、今後の業務において活かせそうこと等はありましたか？

- 居住支援において、アパートオーナーの不安や、緊急時の対応責任者がいることで避けられるケースが多いことなどが理解できた。障害福祉サービスを使っていない場合、難しい問題と思った。
- 病院、地域それぞれの役割について、改めて確認するよい機会になりました。
- 同じように情報共有の部分で困っているということがわかり、連携をとりやすくなるのではないかと感じた。
- 若い方、精神・障害の方の通いの場。相談の場を増やす施策を考えていかないと…考えさせられました。
- 顔の見える連携ができたので、これから相談・連携など更にしやすくなる。

今回は、病院と地域、障害部門・高齢部門・住宅部門などの様々な立場の方に参加いただき、住まいと地域での生活支援について、何ができるかを話し合い、入院中から退院後の地域生活の課題について深めることが出来ました。今回挙げられた意見を、区の次期障害福祉計画策定に向けた意見として、また国や都への要望につなげ、今後もこういった取組みを継続していきたいと思います。



次回、**第３回『誰でも』地域移行部会は･･･**

令和２年２月２０日（木）午後に**稲城台病院**での開催を予定しています。

今回ご参加された方も、残念ながらご参加できなかった方も、多くの方のご参加をお待ちしております。
また、取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

【事務局】
世田谷区障害福祉部障害保健福祉課
世田谷保健所健康推進課
電話　03（5432）2247
Fax　03（5432）2947